

2013年4月12日 発行

2014年2月26日 改訂

どなたでもいつの会でも参加できます

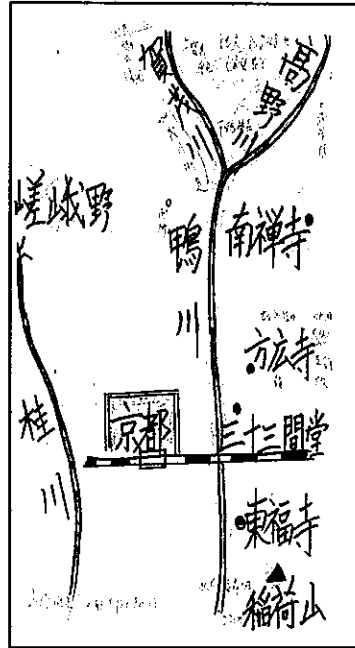
森三郎刈谷市民の会

「森三郎の作品を読む会」

3月の「森三郎の作品を読む会」では、
 「夜長物語」（「赤い鳥」昭和7年2月号初出・
 森三郎童話選集「夜長物語」所収）
 を読みました。

「夜長物語」は、京の都の町はずれに住む主人公の片野少将が、秋の半ばの月のいい夜更けに、月に誘われて散策をした際に見聞きしたた不思議な話というスタイルになっている。

会員の水野日出夫さんが、まず、少将がどこを歩いたかを地名を追いながら地図に示してくれた。



少将が垣間見た話の発端は、西の宮の恵比寿様のお社へお供えを盗みに入った小ねずみたちの騒動である。そこからえびすさま、大黒さまが互いに軍勢を引き連れてにらみあうというスケールの大きい話になっていく。水野さんは応仁の乱を意識して書いているのではないかと話された。物語中の騒動は、丁度、大和の国の達摩寺へ参詣した後、都にやってきた布袋和尚の仲介で双方和解へと落ち着いていく。

そして、片野少将は、気がついて見ると、自分のやしきの縁先で眠り込んでいたというのである。

はなしの中には「古事記」の国生みの話があったり、まるで「邯鄲の夢」のような構成であったりと、一読しただけでは分かりにくい箇所があるが、細かい解説を聞きながら、楽しい一時を過ごせた。

この話は昭和7年2月号の「赤い鳥」所収であり、森三郎さんは正月を前に、七福神の話を書いたのかなと想像する会員もいた。

「赤い鳥」裏表紙には

「昭和六年十二月廿四日印刷製本

昭和七年 二月 一日発 行」と記されている。

鈴木三重吉は子供向けに再話した「古事記物語」を大正8年7月号〜9年9月号の「赤い鳥」に連載している。森三郎さんも、当然読んでいるのだから、自分の作品の中に一度は「古事記」の中のお話を取り入れたかったことだろう。

もう一度読み返したいねとの感想を口々に、3月の「作品を読む会」を閉じた。

次回予定 平成25年5月10日（金）午後1時〜3時

「竹馬与市」（「赤い鳥」昭和7年4月号初出・

森三郎童話選集「かささぎ物語」所収）

「鼻のはれもの」（「赤い鳥」昭和7年4月号初出）

「森三郎に親しむ集い」のご案内

日時 成25年 5月12日（日）午後1時10分〜3時40分

会場 刈谷市社会教育センター ホール

（刈谷市民交流センター4階）

童謡斉唱・ヘルマンハープ演奏・森三郎童話朗読劇